

# ●THUNDERBIRD® Next SYBR® qPCR Mixの使用条件 [Bio-Rad CFX96 Opus : 高速サイクル]

## (1)反応液の調製

以下に、50  $\mu$ Lおよび20  $\mu$ L反応時の調製例を示します。

試薬	50 $\mu$ L反応	20 $\mu$ L反応	最終濃度
滅菌水	X $\mu$ L	X $\mu$ L	
THUNDERBIRD® Next SYBR® qPCR Mix	25 $\mu$ L	10 $\mu$ L	1x
Forward Primer	15 pmol	6 pmol	0.3 $\mu$ M*1
Reverse Primer	15 pmol	6 pmol	0.3 $\mu$ M*1
DNA溶液	Y $\mu$ L	Y $\mu$ L	
合計液量	50 $\mu$ L	20 $\mu$ L	

\*1: 増幅効率が不十分な場合は、プライマー濃度を増やすことで、また非特異反応が発生する場合は、プライマー濃度を減らすことで、反応結果が改善することがあります。  
プライマー濃度は、最終濃度0.2~0.6  $\mu$ Mを目安にご検討ください。

## (2)PCRサイクル条件設定

ステップ	温度	時間	昇降速度
(UNG反応)	(20~25° C)	(10分)	(最大)
初期変性	95° C	30秒	最大
PCR 変性	95° C	5秒	最大
(40 cycles) 伸長	60° C*2	10秒	最大
(Data Collectionは伸長ステップに設定します)			
融解曲線分析 (Melting / Dissociation Curve Analysis)			

\*2: 十分な増幅効率が得られない場合は温度を低めに、非特異的の反応が発生する場合は温度を高めに設定することで、反応が改善されることがあります。56~64°Cの範囲を目安にご検討ください。